

うりずんの季節が終わったと思ったら、ゴールデンウィークも終わり、この6月号が皆様の手元に届く頃には梅雨に入っているでしょうか。

3月に開催された琉球大学医学部新任教授記念講演会は、三人の新教授から、今後の意気込みやビジョンが語られ、大変頼もしく感じました。

同じく3月に、第5回うりずんフェスタが開催され、目玉の「お笑い・かかりつけ医」では、午前は玉城デニー沖縄県知事、午後は松本吉郎日本医師会会長が参加し、笑いを交えながら医療連携やかかりつけ医の重要性を分かりやすく発信し、会場では多職種による体験型ブース、45店舗の出店も行われ、家族連れで終日賑わったことなどが報告されています。働き盛り世代への健康啓発やLINE登録者増加など成果も大きく、県民に親しまれる健康イベントとして定着してくれるものと思います。

生涯教育コーナーでは、沖縄での血液内科診療の現状を踏まえた上で、地域の診療所の先生が押さえるべき要点と相談基準を整理した実践的な診療マニュアルを作成し、連携強化で地域全体の血液診療体制充実を目指していることが紹介されています。

中部保健所長の宮里先生は、就任後の2年間で振り返り、津波警報や豪雨を契機とした災害対応体制整備、麻しん対策の重要性を語ってくれました。「沖縄はワクチン接種率が低く、関係機関と連携した感染拡大防止が課題である。また、中部保健所は広域連携しやすく米軍基地を抱える地域特性を持ち、多職種協働が強みである。」公衆衛生医師として地域全体の健康を支えるやりがいと、医師会との協働の必要性を強調されました。

歯周病は糖尿病、心血管疾患、脳血管疾患、早産などと関連し、高齢者ではオーラルフレイルや誤嚥性肺炎予防にも口腔管理が重要で、医科歯科連携の大切さを改めて感じました。

国際麻薬乱用撲滅デー：薬物乱用は深刻化し、若年層の大麻や沖縄の「ゾンビタバコ」対策が急務です。6月の「ダメ。ゼッタイ。」運動で一人でも薬物に手を出さなくなることを願うばかりです。

今月号も盛りだくさんの内容で楽しんでいただけのではないかと思います。

広報委員 天願 俊穂

